

2023年10月30日

各位

会社名 株式会社日本エム・ディ・エム
代表者名 代表取締役社長 弘中 俊行
(コード番号 7600 東証プライム)
問合せ先 I R室 棟近 信司
(03-3341-6705)

2024年3月期第2四半期連結業績予想と決算値の差異、 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2023年4月28日に公表した2024年3月期第2四半期連結業績予想と本日公表の決算値に差異が生じたので、下記1. のとおりお知らせいたします。また、2024年3月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、下記2. のとおりお知らせいたします。

記

1. 第2四半期連結業績予想と決算値の差異

(1) 2024年3月期第2四半期連結業績予想と決算値の差異 (2023年4月1日～2023年9月30日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	10,800	800	750	450	17.11
決算値 (B)	10,952	617	632	359	13.67
増減額 (B-A)	152	△182	△117	△90	
増減率 (%)	1.4	△22.8	△15.6	△20.1	
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期第2四半期)	9,989	927	916	721	27.35

(2) 差異の理由

当第2四半期における日本国内の売上高は、骨接合材料分野が堅調に推移し計画を上回りました。しかしながら、米国の売上高は、人工関節分野の人工膝関節製品は好調に推移したものの、人工股関節製品は競合他社が導入した新製品の影響により獲得症例数が減少したことからUSドルベースで計画を下回りました。

なお、為替換算レートが想定為替レート (1USドル 135円) より円安 (1USドル 141.31円) となったことから、連結売上高は、前回予想を上回る結果となりました。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、USドルベースでの米国売上高が計画を下回ったこと、サプライチェーン上の問題を回避するために外部ベンダー活用を拡大したことによる米国製造原価の悪化に加え、円安により売上原価が悪化したことで、前回予想を下回る結果となりました。

2. 通期連結業績予想の修正

(1) 2024年3月期通期連結業績予想の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	23,300	2,500	2,400	1,500	57.03
今回修正予想 (B)	23,600	1,800	1,850	1,150	43.71
増減額 (B-A)	300	△700	△550	△350	
増減率 (%)	1.3	△28.0	△22.9	△23.3	
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期)	21,307	2,024	2,043	1,423	54.03

(2) 修正の理由

下半期の想定為替レートについて、円安の進行により、前回予想の1USドル135円から同150円に修正いたします。

日本国内の売上高は、骨接合材料分野を中心に堅調に推移するものと想定していますが、施設限定で販売している一部新製品の全国展開の遅延が想定されることなどから、前回予想を下回る見込みです。また、米国の売上高は、人工関節分野の人工膝関節製品は好調に推移するものの、人工股関節製品は大型新製品のFDA承認取得の遅延が想定されることから、前回予想をUSドルベースで下回る見込みです。

なお、通期の連結売上高は、上記売上高の修正に加えて下半期の想定為替レートを1USドル150円に修正したことにより、前回予想を上回る見込みです。

通期の売上原価は、下半期においてもサプライチェーン上の問題による米国製造原価の悪化が想定され、日本国内の売上原価は下半期の想定為替レートを1USドル150円に修正したことにより悪化が想定されます。また、通期の販売費及び一般管理費は、売上高の見通しを修正したことにより、研究開発費等を除き削減するものの売上高販管費率が上昇することが見込まれることから、営業利益、経常利益、及び親会社株主に帰属する当期純利益の前回予想を修正いたします。

以 上